



発行所

関西配管工事業協同組合
〒531-0071
大阪市北区中津1-2-19
新清風ビル7階
TEL(06)6371-5905 FAX(06)6371-9544

編集者

事業部・教育情報部
HP:<http://www.kankan-club.or.jp/>
E-mail:jimu@kankan-club.or.jp

発行日
平成29年8月18日

Vol.66



関 西 配 管 工 事 業 協 同 組 合 機 間 誌

もくじ



● 第21回通常総会／臨時総会開催	2
● 平成29年度事業計画	3
● 組合役員構成	3
● 認定職業訓練講座開講	4
● 3団体懇談会を開催	5
● 4団体協議会を開催	6
● 庄司新理事長に聞く	8
● 青年部会 同世代異業種と交流	9
● 日管連・第12回定期総会開催	10
● 理事会議事要旨	11
● 新入会員	11
● 建築・土木技能体験フェア開催	12
● 9月に大阪管材展開催	12

技術・技能の向上と継承で 信頼される業界めざす

新理事長に庄司真之氏選任

組合の第21回通常総会は5月25日、組合事務局近くの大坂市北区の三栄ビル会議室で開催し、専門工事業として一層信頼される業界づくりをめざし、技術・技能の向上と継承を図るための多彩な事業計画を決定しました。また、6月22日に同所で開催した臨時総会で任期満了に伴う役員改選を行い、新理事長に庄司真之氏（前副理事長・ツカサ社長）を選任しました。



議長を務める立花理事（通常総会）

通常総会は小阪武司理事の司会で進められ、立花忠夫理事を議長に議事に入り、平成28年度事業報告・会計報告を行ったあと、29年度の事業計画・予算を決めました。



新役員を決めた臨時総会



通常総会のもよう

今年度も引き続き上部団体・日本配管工事業団体連合会（日管連）と連携して業界の社会的地位の向上を図ることを確認し、登録配管基幹技能者や1級配管技能士の資格取得へ向けた各種研修・講習に力を注ぐこととしました。

また、ダクト工事業（近畿ダクト工事業協同組合）、保温保冷工事業（近畿保温保冷工業協会）と共に通する課題が数多くあることから、これら2団体と組織する「関連3団体懇談会」で意見・情報交換していくことを申し合わせたほか、3団体に工事発注元であるサブコン団体（大阪空気調和衛生工業協会）が加わった「関連

4団体協議会」でも設備工事業全體で取り組むべき課題について共同で解決の糸口を探っていくこととしました。

通常総会で審議未了となった任期満了に伴う役員改選議題については、臨時総会で新役員（理事9名・監事1名）を選出し、直後に開いた理事会で新理事長に庄司氏を選任、副理事長に玉川義光氏（前理事長・玉川設備環境代表）と小阪武司氏（前理事・小阪設備工業社長）をそれぞれ選任しました。このほか、2名の理事が留任、4名の理事が新任、監事（1名）は留任となりました。（次ページに新役員構成）

選任された正副新理事長
(庄司理事長を中心に右・玉川副理事長、左・小阪副理事長)

◇平成29年度事業計画◇

(29年4月1日～30年3月31日)

【総務部事業計画】

1. 組合員企業の経営に役立つ事業の計画と実施
 - (1) 経営者及び次世代経営者のための講演会・研修会の実施
2. 組合並びに業界の社会的地位と認知度の向上を図る
 - (1) 日管連の企画実施事業に積極的に参加協力する
 - (2) 設備関係の団体との懇談会などを通じて関係業界との意志疎通を図り、建設業界における当組合、ひいては日管連の地位の確立と向上を図る
3. 組合の発展と財政的基盤の維持向上を図る
 - (1) 組合員（正組合員・賛助会員）の拡充を図るための研究をする
 - (2) 組合財政の収支バランスを見直し健全な運営を図る
4. 組合員相互間の交流と相互理解を促進する
 - (1) 組合員相互の親睦を図るため、新年賀詞交歓会、見学会など全組合員対象の行事を企画実施するとともに、組合員・賛助会員合同懇談会を隨時開催し、情報交換を図る
5. 青年経営者・後継者の拡充強化を図るため、組合青年部会の活動事業を支援する

【事業部事業計画】

1. 労働保険事務組合認可に伴う事務処理体制の確立と、一人親方労災保険特別加入の充実を図る
2. ヘルメットなどの斡旋業務の見直しと組合取扱資材の増強を図る
3. 「工事作業日報」の充実活用と「配管工事積算工費資料」の改訂版発行を計画する
4. 賛助会員並びに管工機材団体との懇談会の開催を企画し、管工事業界全体の向上を図る

【教育情報部事業計画】

1. 各種の資格取得支援の体制を維持・充実させ、技術研修会を開催し、高度な技能の伝承に努める
2. 認定職業訓練短期課程配管科1級技能士コースの実施並びに技能検定試験事前実技講習を実施する
3. 「配管技能士」の社会的地位と認知度の向上を図る

ため長期的視野のもと研究に努める

4. 「登録配管基幹技能者」の確保・育成・活用の推進と「基幹技能者講習」の開催協力を図る
5. 機関誌「KAN KANくらぶ」の発行と内容充実を図る

【青年部会活動計画】

1. 日管連全国青年部会並びに大阪府青年中央会との親睦・交流を図る
2. 毎月1回の例会を開催し、情報交換を図る
3. 工場見学会・勉強会・親睦会の実施
4. 親組合の記念行事・展示会などへの支援・協力
5. 青年部会への新規加入部会員の募集
6. インターネットを活用し、組合事業活動並びに青年部会の活動をよりPRする
7. 「助け合いネット」の利用により、会員企業間でのリアルタイムの活用推進

組合役員構成

(平成29年度・30年度 敬称略)

- 理 事 長 庄司 真之 (株)ツカサ)
副理事長 玉川 義光 (玉川設備環境)
副理事長 小阪 武司 (小阪設備工業株)
理 事 中野 広造 (中野設備工業株)
理 事 池成 信夫 (有信成設備工業)
理 事 立花 昇 (株藤尾設備工業所)
理 事 朝倉 博昭 (有朝倉設備)
理 事 中道孝太郎 (株中道設備工業)
理 事 斎藤 竜久 (株三進)
監 事 岡崎 照雄 (岡崎産業株)

部 会

- 総 務 部・部会長 小阪 武司
教育情報部・部会長 玉川 義光
事 業 部・部会長 庄司 真之

青年部会

- 部 会 長 朝倉 博昭 (日管連全国青年部会部会長)
副部会長 斎藤 竜久

日曜利用して延べ15日間受講



組合の教育情報部会（部会長・玉川義光副理事長）が担当している平成29年度認定職業訓練講座（配管科・1級技能士コース、第19期）が4月から9月まで尼崎市武庫豊町の兵庫職業能力開発促進センター（ポリテクセンター兵庫）で行われています。受講生は1級配管技能士の資格取得をめざし熱心にカリキュラムに取り組んでいます。

認定訓練講座は大阪府の認定を受けた短期課程職業訓練です。この認定訓練講座を修了するには全訓練時間の80%以上の出席と最終日の修了試験に合格しなければなりません。修了者には、技能検定国家試験（建築配管作業）における学科試験免除の特典が与えられます。

講座は、ポリテクセンター兵庫で4月16日にスタート、9月3日までの日曜日、延べ15日間・120時間（25教科）にわたって続けられます。

今年度は17人（15社）の講習生が14人の講師から学んでいます。流体の基礎理論・熱力学の基礎や材料各論、施工法、建築配管、製図、施工法の一部、関係法規、安全衛生など幅広い知識を身につけ、最終日に全教科の総まとめと修了試験が行われます。

受講者の皆さんには酷暑の中、休日返上で研修に取り組んでいます。受講者の周囲の方々のご理解をたまわりますようお願い申し上げますとともに、これからも認定職業訓練講座の積極的な活用をお願いします。



【講師の先生】（50音順、敬称略）

- ◇大原 明 ◇鬼武 孝一
- ◇金野 義弘 ◇頃末 寛
- ◇柴田 健治 ◇鈴木 香次
- ◇澄川 史朗 ◇瀧口 佳典
- ◇玉川 義光 ◇直江 健
- ◇原本 昌興 ◇宮本 泰仁
- ◇宮本 祥子 ◇森 良則

【受講者】（社名50音順、敬称略）

- ◇赤井設備工業 = 田中 利幸
- ◇アクアテック = 泉尾 浩二
- ◇カワタプラントサービス = 小野 一
- ◇関西工営 = 立野 雅
- ◇共栄工業 = 青野 哲治
- ◇信成設備工業 = 池成 宏介
- ◇谷村工業 = 川井 勇人
- ◇ツカサ = 佐藤 大介
- ◇Tz PLUMBER (ティーズ プランバー) = 辻脇 一彦
- ◇東和管工 = 藤本 守
- ◇藤和工業 = 上尾 雅文、吉田 雅臣
- ◇中道設備工業 = 吉田 好正
- ◇原田工業 = 江野脇 憲典、喜多村 裕助
- ◇渕田工業 = 今村 歩
- ◇みやび重設 = 中山 周一

第41回 「3団体懇談会」開催

「女性技能者の育成・確保」などで情報交換

大阪府の雇用推進担当者とも意見交わす

当組合と近畿ダクト工事業協同組合（ダクト工事団体）、近畿保温保冷工業協会（保温保冷工事団体）で構成する「3団体懇談会」は3月7日、組合事務局近くの三栄ビル会議室で第41回会合を開き、女性技能者の育成・確保や社会保険未加入対策の進捗状況などについて意見・情報交換するとともに、大阪府の担当者から府の人才確保の取り組みを聞きました。

会合には17人が出席。最初に、大阪府商工労働部雇用推進室・人材育成課産業人材育成グループの瀬戸山貴志課長補佐、同室の就業促進課女性就業推進グループの奥野裕子総括主査と同課企業支援グループの佐藤麻由子主査から取り組みを聞きました。

大阪府では、製造業、運輸業、建設業の企業や団体などと「大阪人材確保推進会議」を設置し、業界のイメージアップによる雇用促進に取り組んでいます。府の担当者は、同会議が計画しているアクティビカウンセリング、各種セミナー、インターンシップ、業界密着ツアー（1日）などを紹介し、「大企業志向、事務職志向になりがちな若者に製造・運輸・建設の現業の魅力を発信していきたい」と述べるとともに、会議への参画・活用を呼び掛けました。



3団体側からは業界密着ツアー（現場見学・体験）について「建設業はセグメントが多様に分かれているので、それに対応した企画を望みたい」「ゼネコンの建設現場で女性技能者が安心して働くところはまだまだ少ないのでゼネコンへ働きかけてほしい」と要望意見が出されました。これに対し、府の担当者からは「今はとりあえず枠組みをつくった段階だが、今後は皆さまの様々な声を届ける場も設けていきたい」と述べました。

女性技能者の確保・育成については、女性技能者を朝9時から夕方4時の勤務体制にして現場入りを実現している例が紹介されたが、多くの現場ではまだ女性専用トイレ、更衣室、禁煙休憩所など職場環境の整備が進んでいない現況が報告されました。ただ、近年、現場で女性の技術者が増えつ

つあることから職場環境の改善は徐々に進むのではという見方が示されました。一方、ある現場では所長の「女性は危険」というひと言で入場できなかった例も報告され、女性が働く職場づくりは息の長い取り組みになるとの意見が大勢を占めました。

社会保険未加入問題については、ゼネコンは、ゼネコンからみて4次下請の社会保険未加入業者を現場から排除しようとしている現状が報告されました。配管・ダクト・保温保冷の3団体からも、その下請層では社会保険に対する認識が相当薄いという印象があるとの見方が多く出されました。

社会保険の法定福利費を発注先からもらっているかどうかについては、「全額ではないけどもらっている」（配管）、「掛率が現場ごとに違うので、もらっている実感は薄い」（ダクト）と、見方が分かれました。

4団体協議会を開催

「社保問題」「働き方改革」などで意見・情報交換

当組合と近畿ダクト工事業協同組合、近畿保温保冷工業協会、サブコン団体の大空衛（大空衛）の4つの設備工事関連団体で組織する4団体協議会の第24回会合が3月22日に、第25回会合が7月24日に大空衛事務局のある新トヤマビル3階の会議室（大阪市中央区）で開かれ、建設業界の「社会保険未加入問題」「技能者の適切な賃金確保」「働き方改革」「工事従事者の安全・健康確保」などで意見・情報を交換しました。

第24回会合には11名が出席。「保険未加入問題」については、「ゼネコンから現場入場の業者に社会保険に加入するよう指導はされているが、現実にどの程度加入しているかは把握していない模様で、サブコンも把握できていない」「スーパーゼネコンや中堅ゼネコンでは保険加入問題に厳しい姿勢で臨むと思われるが、そうでない中小ゼネコンもあって取り組みに温度差がかなりある」といった見方が示されました。

これに関連して、一部ゼネコンでは小規模業者に一人親方になって特別加入するような指導をしている状況や、一人親方になって特別加入する際、会社が資金を負担するというところもあるという事例が報告されました。また、「保険に加入しなければならないとなつたら建築業を辞めるという業者もいる」「マンション中心のあるゼ

ネコンの現場では一次下請は保険に加入しているが、それ以下はほとんど未加入業者の場合もあって未加入者を現場から排除すれば工事は止まってしまう」という現場の厳しい実情も報告されました。

このほか、「国民健康保険、国民年金保険の原本を持ってきてもらってコピーを取っていても、その後は保険料を支払っているかどうかは把握できないので加入・未加入の判断は難しい」「ゼネコン、サブコンでは直近の（各保険の）納付書を持ってくるよう指導しているところもある」など取り組みの難しさが報告されました。

39.3%（被災3県では平均55.3%）上昇し、配管工は全国平均約27%、ダクト工は同約32%、保温工は同約36%それぞれ上昇したことが報告されました。

情報交換では、「建設労働者が受け取る賃金をもとに設定している公共工事設計労務単価が労働者の雇用に伴い必要な賃金以外の経費を含んだ金額と誤解され、必要経費分の値引きを強いられる結果、技能労働者に支払われる賃金が低く抑えられている」と指摘する意見もあがりました。

「建設工事従事者の安全及び健康の確保」については、その推進



第24回会合

「技能労働者への適切な賃金水準の確保」については、事務局より国土交通省から建設業団体へ届いた〈技能労働者への適切な賃金水準の確保〉の説明が行われ、それに関連して、平成24年度の労務単価と今年3月適用の新労務単価を比べると、全業種の全国平均

に関する法律案（目的、基本理念、基本計画など）が事務局から説明され、「今後、どのような施策を実施していくのか注目したい」「今までこのような法律がなかったことが不思議だが、法律として制定されたことはよかったです」という意見が大勢を占めました。

第25回会合には10名が出席。「社会保険未加入問題」については、大手ゼネコンなどで〈グリーンサイトシステム〉の利用が広がっていることから下請業者の保険加入の状況がよりはっきり把握できる状態になりつつある現状が報告されました。〈グリーンサイトシステム〉とは、建設業界の労務・安全衛生に関する管理書類(通称グリーンファイル)をインターネットで簡単に作成・提出・確認できるサービスです。このサイトを利用すると、保険加入に関する指導の履歴をシステム上に残すことができます。ゼネコンはこれによって協力企業・下請企業の保険加入状況を把握し、加入促進に結びつけようとしているようです。サブコンでもこうしたゼネコンに対応して〈グリーンサイトシステム〉を導入する動きが出ています。

また、一部の大手ゼネコンでは、4次下請を全国平均で10%以内に抑えようとする動きがあることが報告されました。将来的には4次下請をなくし、3次下請までにして保険未加入問題に対応しようとする動きとみられています。

しかし、設備関係業界の実情に照らしてみると、ゼネコンが4次下請を大幅にカットすれば現場がストップするのは目にみえていることから、ゼネコンからみて4次下請に当たる業者に対してサブコンが直接発注をして、ゼネコンからは3次下請になる形態にする動きが出てくることも考えられます。ただ、この場合は、サブコンは取引先が増えて手間やコストの増大が危惧されます。4団体とし



第25回会合

ては、こうした動向を注視していくこととしました。

「働き方改革」では、建設業関連について今年3月に決定された国土交通省の〈働き方改革実行計画〉が事務局から説明されたあと、情報交換しました。この中では、配管・ダクト・保温保冷の技能者の労働実態から〈働き方改革〉にはかなり困難な問題をはらんでいることがクローズアップされました。その一つは、この3職種の技能者は月給制、日給月給制、請負制などが混在し、一般社会の月給制労働者のような「休日増」「残業削減」「労働時間短縮」を一様に期待・歓迎することがないことです。日給月給制の技能者からは「休日が少なくてもとにかく稼ぎたい」という要望を持つ人たちが数多い状況が報告され、「休日を増やすには賃金水準を上げなければいけない」などの声が出されました。

一方、技能者不足の工事現場の現況から「週休2日は極めて難しい」「週休2日のローテイションを組める人数を確保できる状況に

はない」「日曜日にも出でもらっている実情なので休日増など考えられない」などの厳しい現状も報告されました。

「建設工事従事者の安全及び健康の確保に関する基本的な計画」については、工事現場の労働災害により尊い命が失われていることを重く受け止め、労災撲滅に向けて認識、取り組みを強化していくことを確認しました。この中では「適切な工期設定現場が少ない」「突発的な変更への厳しい対応」「昨今、現場内のメール件数が増え、その処理に追われる」などの声があり、こうした建設業の体制的な問題の解決なしでは安全・健康の確保も進展しないといった見方が示されました。

最後に当組合から、組合として災害時に対応するため、BCP(事業継続計画)の素案を年内に作成し、組合員に提示したいとの説明を行いました。また、組合員間の相互扶助を目的として、「助け合いネット」を開発し、現在、20社程度が利用していることを報告しました。

庄司新理事長に抱負を聞く

当組合は6月22日に開催した臨時総会で任期満了に伴う役員改選を行い、新理事長に庄司真之氏（前副理事長・ツカサ社長）を選任しました。

配管工事業は多くの課題に直面し、いずれも容易に克服することができない問題を内包しています。庄司新理事長に課題の現状と抱負の一端をお伺いしました。



—厳しい業況にあるといわれる配管工事業界のリーダーに立たれた、率直な感想をお聞かせください。

「配管工事業の社会的地位向上にこの私でお役に立てるのであればと、組合理事長をお引き受けしました。今の業界が置かれている状況では、縁あってこの業界に入ってきた若者もプライドが持てそうになく、可哀そうです。業界の地位を少しでも引き上げていきたいと考えています」

—今のお話とも関連しますが、業界が直面している課題は様々あると思います。重要なものをあげるとすれば何でしょうか。

「まず、業界の社会的地位の引き上げです。一般社会の認識において、われわれは、工事の主要受注先であるサブコンさんとの格差があまりにも大きく、その差を少しでも詰めていくことが社会的な地位を上げることだと思っています。サブコンさんと比べて配管業者は一般社会から相当な差をもつ



てみられていることは常々感じております。それは企業規模の差だけでなく、仕事に対する認識の差、立ち位置の差です。この格差は、サブコンさんに責任があるのではなく、われわれの業界がそうした境遇に甘んじてきた結果だと思います。格差の大きな要因は技術力の差、人の差だと考えています。〈技能〉だけに頼り過ぎ、〈技術〉を磨いてこなかったこと、社員教育を疎かにしてきたことが現状を招いたと思っています」

「手前味噌になりますが、近年、当社では技術力を高める努力を続けて、高度技術を要するクリーンルームの関連工事も手がけるようになりました。当業界で、こうした高度技術化設備をこなす人材が増えれば、サブコンさんとの技術格差も縮まり、将来はワイン・ワインの関係の道が開けると思います。業界人が集まる場でこうした取り組みの必要性を強く訴

えていきます」

—若年労働力の確保が建設業全体の課題としてクローズアップされています。

「配管工事業でも技能者の高齢化と近い将来の引退、若者の入職者減の二重苦に直面しています。この課題に対しては、福利厚生面の充実、給与水準の改善、休日増・時短など幅広い視点で、しかもかなり困難な問題を抱えながらの取り組みになります」

「たとえば休日増の問題についても、当業界には日給月給制と月給制の技能者が混在し、月給の人は労働時間の短縮を歓迎しますが、日給月給の人は休日などなくても、とにかく稼ぎたいという人もたくさんいるわけで、技能者とひとくくりにして取り組めないところがあります。その問題はひとまずおいて、社会保険の加入促進や待遇改善など、手のつけやすい部分から地道に努力していく以外な

いと考えます」

「一方で、労働力確保の観点から女性技能者の入職について幅広い視点で取り組みます。女性トイレや専用更衣室の設置に加え、勤務時間の配慮なども重要です。建設現場特有の朝8時の朝礼に子育て中の女性技能者をどう対処していけばいいのかなどクリアすべき問題は多くあります。一例として、朝9時から夕方4時までの勤務時間にする方策もあり、当社では、その方法で試験的に女性技能者に現場に入ってもらっています。女性のきめ細やかな仕事ぶりなど女性ならではの資質を活かせば当業界でも大きな戦力になると確信しています」

— そうした様々な課題に対し、協同組合としてどんな取り組みが考えられますか。

「技術力の修得、若者や女性技能者の確保につながる労働環境の改善など多くの課題対応はまだ緒

についた段階です。これから組合員に呼びかけていろいろな事例を試していただき、また成功事例を増やしてもらい、業界の横のつながりを密にして情報・意見交換する中から各社でヒントをつかみ取ってもらえたと願っています」

「組合の青年部会の活動にも期待を寄せています。青年部会では〈助け合いネット〉という仕組みを展開しています。繁忙現場へ余裕のある会員企業から人員を派遣して相互にメリットを生み出そうというものです。かつてのような煩雑な電話のやり取りをネットで時間ロスなく処理できるとあって好評で、近い将来には全国の同業者間にも広げようとしています」

「関東配管工事業協同組合さんが先行して導入しようとしている当業界のBCP（事業継続計画）にも期待を持っています。当組合でも取り組みを始めました。これらも組合という団体があってこそ

取り組めるもので、組合の構成員が受ける恩恵の一つでもあります。こうした情報を業界の内外に積極的に発信し、組合員の増強に力を注ぎます」

— 業界の将来をどうみていですか。

「この業界はライフラインに直結する重要なものです。建築物・施設・工場などの各種設備の新設・更新は永続し、個々の企業の淘汰はあっても業界自体は発展を続けるでしょう。この中で若者が希望を持って生き生きと暮らしていく体制づくりをめざします」

— 座右の銘、信条をお聞かせください。

「〈感謝〉のひと言です。厳しい時代に生かされていることに感謝し、社員に取引先に周囲に常に感謝の気持ちを持って物事に当たっています」

◇昭和27年11月17日生まれの64歳。

青年部会 同世代異業種と交流

当組合青年部会（部会長朝倉博昭氏）の有志は5月19日、ホテルモントレラ・スール大阪（大阪市）で開催された大阪府中小企業青年中央会の通常総会後の交流懇親会に出席し、異業種の青年層と交流を図りました。

大阪府中小企業青年中央会の島巻学年会長が「こういった場に参加して、アンテナを張りながら何かお土産になるものを持って帰ってもらいたい。今後は皆さんにぜひ参加していただきたい」と挨拶し



ました。当組合青年部会からは齊藤竜久副部会長が挨拶しました。

懇親会では、繊維、食料、運輸、鉄鋼・機械・金属、サービス

挨拶する当組合青年部会の
齊藤竜久副部会長

業など様々な異業種分野で活躍している若者と活発に意見・情報交換しました。

日管連第12回定時総会

実践スローガンで「配管工事の社会的意義」をアピール



日本配管工事業団体連合会（日管連、会長當木仁氏）の平成29年度（第12回）定時総会が7月14日、札幌市の札幌グランドホテルで開催され、人材の確保・育成に向け力を結集するとともに、登録配管基幹技能者の活用や社会保険加入促進、青年部会の活動支援など多彩な平成29年度事業計画を決めたほか、今年度実践スローガンとして「広めよう！ 社会を活かす配管工事、未来（あす）へと継（つな）ぐ日管連」を決議し、配管工事の社会的意義をアピールしていくことを申し合わせました。

今回の総会には全国7団体の代表者らで構成する日管連役員が出席し、当組合からは庄司真之理事長（日管連副会長）、玉川義光副理事長（同理事）、小阪武司副理事長（同）、池成信夫理事（同代議員）、中野広造理事（同）、朝倉博昭・日管連全国青年部会長が出席しました。

総会冒頭挨拶で當木会長は、連合会の活動理念『レベルアップでつなぐ豊かな私たちの明日』をあ



挨拶する當木・日管連会長

げ、「社会に貢献して私たちの明日を築いていくには適正利益を確保し、新規入職者を確保していくことが欠かせない。しかし、当業界ではそこまでの利益の配分にあずかっていないし、失業率が3%を切り、高卒の就職希望者の就職



日管連副会長の就任挨拶を述べる
当組合の庄司理事長



挨拶する日管連全国青年部会・
朝倉部会長（当組合理事）

率が98%を超える中で新規技能入職者を確保するのが非常に難しい状況である。取引先である日本空調衛生工事業協会の実践スローガンには『適正価格での受注』がうたわれていて、同協会もわれわれ適正利益の確保の必要性について理解はしていると思われ、勇気をもって取引先に要求していこう」と呼びかけました。

このあと、當木会長を議長に議事に入り、平成28年度事業・決算報告に続き、29年度の事業計画・予算を決定しました。今年度の事業については、登録配管基幹技能者の育成と活用促進を中心に、国土交通省と各自治体、建設関連団体が取り組んでいる社会保険加入促進、設備工事3団体（配管・ダクト・保温保冷）での情報・意見交換、青年部組織への支援、事業継続計画（BCP）の展開などに取り組んでいくこととしました。このあと、来賓を交えて懇親会が催され、活発に交流しました。

理事会 議事要旨

【29年3月】

- ①平成29年度認定職業訓練配管科
1級技能士コース受講申し込み
応募状況報告
- ②第41回3団体懇談会開催に伴
う、出席メンバーと当日の提出
議題報告
- ③組合設立20周年記念祝賀会の終
了報告
- ④第21回通常総会開催日程と開催
場所・方法の検討
- ⑤平成29年度組合事業計画並びに
予算編成の基本方針検討
- ⑥その他
 - 大阪府立北大阪高等職業技
術専門校のPR内容と、平成29
年度テクノ講座実施案内
 - 第3回竹中工務店大阪本店
との意見交換会開催検討

【29年4月】

- ①平成28年度後期技能検定試験・
1級配管（建築配管作業）受検
結果報告
- ②平成29年度認定職業訓練配管科
1級技能士コース受講申し込み
者報告並びにカリキュラム・担
当講師の決定報告と開講につ
いて
- ③第41回3団体懇談会出席報告
- ④大空衛主催の第24回4団体協議
会出席報告
- ⑤日管連理事会出席報告
- ⑥大阪配管高等職業訓練校より講
師派遣の依頼について
- ⑦平成29年度1級配管技能検定受
検対策実技講習の実施日程と講
習会場について
- ⑧平成29年度組合行事計画予定表

- の作成について
- ⑨平成29年度組合事業計画書（案）
並びに収支予算書（案）の策定

の件

【29年7月】

- ①関西配管工事業協同組合の「事
業継続計画（BCP）」策定に
ついて
- ②平成29年度「登録配管基幹技能
者講習」の開催案内書・ポスター
ー送付報告
- ③大空衛主催・第9回配管技能コ
ンテスト参加申し込み者の当組
合からの推薦報告
- ④新規組合員の加入申し込み諾否
について
- ⑤その他
 - 8月定例理事会休会の件
 - 平成29年度・組合行事計画
予定表の再確認
 - <参考資料>「理事と監事
のための組合運営の基本知識」
各理事配布の件

新入会員

組合員

(平成29年7月1日付加入)

(有)野村設備 営業所

代表者 野村 幸司氏
〒554-0051
大阪市此花区西島4-2-47

Tel.06-6460-1256
Fax.06-6460-1257

(株)エイエム

代表者 塩出 育秀氏
〒595-0001
大阪府泉大津市綾井20-1
Tel.0725-20-3691
Fax.725-20-3694

【29年6月】

- ①代理理事（理事長）選出の件
- ②副理事長選出の件
- ③各部会長並びに各部会の担当理
事選出の件
- ④日管連役員・代議員の当組合か
らの選出枠欠員に伴う補充選出

建築・土木技能体験フェアで配管・ダクト工事をアピール

大阪府建団連雇用推進研究会などが主催する「第4回建築・土木技能体験フェア2017」が7月14、15日の2日間、大阪市鶴見区の花博記念公園（鶴見緑地）の「水の館（ハナミズキホール）」で開催され、大阪府内の工科高校生をはじめ多くの来場者が訪れ、建築・土木技能に関心を示しました。

今回は「明日の日本を担うスペシャリストをめざして」をテーマに開催され、設備、型枠、測量、塗装、左官など職業別のブースが設けられました。足場で作られたツインタワーに上る鳶体験や左官職人による壁塗り競技会、大阪工業技術専門校の生徒たちによる棟上



げなど、本格的な職人技と高い技術力が紹介されました。このほか、カンナ削り競争や丸太切り競争なども行われ、無料体験型のイベントは家族連れにも好評でした。

当組合は、設備ブースでダクト工事業協同組合（理事長森靖洋氏）と共に配管・ダクト工事をアピールしました。この中ではダクトの空気や火事の煙を外に逃がす特性を生かし、実際にダクトの

中を潜り抜けるユニークなコーナーも設けられ、来場者は興味深そうに体験していました。

また、当組合員の増田工業（本社・大阪市城東区、社長増田岳史氏）では、高校生や専門学校生などに塩化ビニルパイプを加工して貯金箱を作成してもらうイベントを実施し、参加者は40Aの薄肉塩化ビ管（VU）を専用ノコで切断して貯金箱を作っていました。

組合後援の「管材・設備総合展」

9月7~9日にインテックス大阪で開催

当組合が後援する関西管材・設備業界の一大イベント「第18回管工機材・設備総合展OSAKA 2017」（大阪管工機材商業協同組合主催）が9月7~9日の3日間、大阪・南港のインテックス大阪で開催されます。

今回の出展は181（前回182）の企業・団体、小間数322（前回

308）で、前回を上回る規模で開催されます。メインテーマは「体“管”実“管”“管”動発信！」で、「次代をひらく流体テクノロジー」をサブテーマに掲げ、社会生活に貢献する管工機材・設備機器が果たす重要な役割と最新技術・製品が一堂に紹介されます。



「確かな未来」が会社を変える。

中退共 で退職金。

「中退共」は中小企業が加入しやすい
国の退職金制度です。

①国が制度だから安全・安心!

さらに掛金の一部を国が助成します。

②社外積立でラクラク管理!

管理や運用の手間がかかりません。

③掛金は全額非課税でオトク!

節税に加え、手数料もかかりません。

●パートタイマーさんも
ご加入いただけます。

●他の退職金・企業年金制度等
とのポータビリティも可能です。

詳しくは
ホームページをご覧ください

中退共 検索